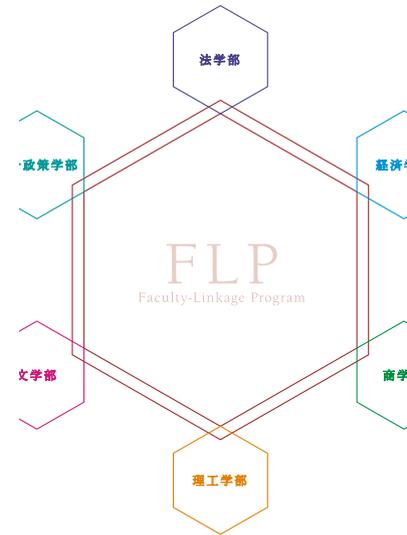


ファカルティ リンケージ・ プログラム (FLP)



2003年度からスタートした「ファカルティリンケージ・プログラム(FLP*)」とは、各学部に設置されている授業科目を有機的にリンクさせ、新たな知的関心の領域に対応する教育の「場」を提供するプログラムで、総合大学ならではの新しい教育システムです。

本プログラムは、学生がそれぞれの所属学部で主専攻の課程を修めるといった基本的な枠組みのもとに、学部の枠を越えて設けられた新たな知的領域を系統的・体系的に学修し、学際的な視点から専門知識の修得と問題解決能力を高めることを目的としています。

現代社会において、このような学際的な領域の問題解決能力を必要とする職種が年々増えていることから、2007年度までに、「環境」「ジャーナリズム」「国際協力」「スポーツ・健康科学」の4プログラムを、

2008年度には新たに「地域・公共マネジメント」プログラムを開設しました。

現在までに、ジャーナリズムプログラムと総合政策学部松野ゼミがシックス・アパート社と共同プロデュースした「新聞ブログ」が、農林水産省推進事業となる全国の小学生による「地域の食に関する情報」発信のためのインフラとして採用されたほか、国際協力銀行主催の学生論文コンテストで最優秀賞を受賞するなど、本プログラムのゼミや履修学生が大手企業や各機関の実施するさまざまなコンクール等に入賞しており、学内外からFLPに対する高い評価を得ています。

また、昨年夏に実施されたオープンキャンパス(25ページ参照)では、学生によるFLPの説明に関心をもつ受験生が多く、本学の魅力のひとつといえます。

*FLP : Faculty-Linkage Program

■ 環境プログラム

地球環境問題など、社会経済システムがもたらす深刻な問題は、すべての人間活動に関連して発生するものであり、その解決には多様な観点からのアプローチが求められます。政府や自治体、民間企業など、日本社会としてどのような取り組みが必要なのかを学習し、より良い解決策が立案できる人材を育成します。

■ ジャーナリズムプログラム

長谷川如是閑や杉村楚人冠といった、日本のジャーナリズム史に残る著名な先輩たちを輩出した中央大学の伝統を継承し、ジャーナリズムのさらなる発展をこの中央大学から巻き起こすことを目的としています。専門知識とともに広い視野をもち、ものごとの本質を深く考察、分析、報告できる能力や日本語および英語の文章力、プレゼンテーション能力などを養成し、マス・メディアの世界で活躍できる人材を育成します。

■ 国際協力プログラム

アジアを中心にした途上国の開発に関する諸問題を、社会開発、経済開発、国際関係、国際ビジネスとコミュニケーションという4つの視点から総合的に研究し、地球社会の深刻な貧困問題の解決に貢献できる人材の育成をめざします。

■ スポーツ・健康科学プログラム

少子高齢化社会の健康問題や、スポーツの国際化・商業化によるスポーツ関連領域の巨大市場化をふまえ、スポーツ・サイエンスの有する学際的特質を生かしながら、スポーツを健康、医療、文化、ビジネス、サービス、行政などとの関連のなかで多面的に理解し、その発展に寄与する人材の育成を目的としています。

■ 地域・公共マネジメントプログラム

地方自治体では、現在、少子高齢化の進行と福祉問題、地場産業や商店街の衰退、市町村合併、財政赤字問題など、公共的な重要課題が山積するとともに、市民参加による健全な街作り・コミュニティ作りへの要請が強くなっています。本プログラムでは、こうした時代の要望を受けて、独自の専門的な知識やスキルを修得してもらい、それらを軸にして地域社会において、多様な社会的課題の解決のため公共マネジメントの政策形成を担うような、有能な人材の育成を目的としています。

